



# 秀吉に 喧嘩を 売った男

九戸政実  
KUNOHE MASAZANE

~『天を衝く』に衝き動かされて

## 九戸政実 vs 南部信直

作家・高橋克彦さん。今回の旅は青森県に残る南部藩ゆかりの地を巡るものとなる。思い立った理由は五年がかりで書き上げた『天を衝く』にあった。『天を衝く』は天下人豊臣秀吉に戦いを挑んだ陸奥の英雄・九戸政実を描く歴史小説である。当時、南部族は秀吉の軍門に降り生き残りつとす。二十六代南部信直らと、自主独立を掲げた政実率いる九戸党の二つに割れていた。結局、九戸党は秀吉が遣わした大軍に滅ぼされ、それは秀吉の天下統一における最後の大戦とされた。

ない。秀吉軍に包囲された九戸城の攻防です。十対一の圧倒的な兵力差にもかかわらず、政実が打ち入る隙を与えなかった。城が落ちたのは、偽りの和議を持ちかけられ城外に政実が誘き出されたせいなのだ。秀吉にあえて喧嘩を売ったのも、自分たちの土地に土足で踏み込んでくる傲慢なやり方に異議を申し立てたからである。『この誇り高い英雄と比較されるのだが、南部中興の祖として後世称えられる信直の『天を衝く』における印象はあまり良くない。』そのせいで僕は南部藩につながる人から恨みを買っているんじゃないかな』と高橋さんは心配している。『でも、よく読んで買えば分かると思うけど、決して信直を悪く描いてはいませんよ。』

一月二十一日金曜日、最初に向かうのは青森県八戸市。旅の同行者は二十年来の友人で、若手放送アナウンサーの松村文代さん。八戸はおよそ八百年前、鎌倉由比ヶ浜を出帆した南部氏の祖・光行が初上陸した土地だ。奥州藤原氏を滅ぼした源頼朝が、戦さの褒美として光行に糠部郡・青森のほぼ全域と、秋田及び岩手(の部)を与えたためである。

盛岡在住の高橋さんは開業したての新幹線「はやて」ではなく、元の東北本線盛岡・目時間はいわて銀河鉄道、目時・八戸間は、青い森鉄道」が現在の名称)で八戸まで行くことと決めていた。この路線には高橋さんの思い出がある。幼少時代を三戸で過ごした高橋さんは、祖父父母の暮らす盛岡に列車で出かけるのが大きな楽しみだった。

作家・高橋克彦さん。  
今回の旅は青森県に残る南部藩ゆかりの地を巡るものとなる。思い立った理由は五年がかりで書き上げた『天を衝く』にあった。



四百年以上前の石組みが今も残る三戸城の一角に立つ



居城が盛岡へ移った際、三戸城の門柱を拝領して作った龍川寺山門

## 南部藩ゆかりの地を訪ねる

三戸城の角櫓を模して建てられた歴史資料収蔵庫を背景に

